

ページレイアウトソフトを用いたDTP学習支援教材の作成（雑誌形式レイアウト編）

産業デザイン科 高松 徹

1. はじめに

今日のグラフィックデザインワークにかかせない、DTP（Desktop Publishing）ワークとは主に次の3つのソフトウェアを活用したワークによって進められる。

- ・ドロー系グラフィックソフトを用いたイラストレーションや図形等の描画及び広告・チラシなどの端物印刷物の制作
- ・フォトレタッチソフトを用いた各種画像処理・画像加工及び印刷物等の素材の制作
- ・ページレイアウトソフトを用いて上記2つの要素にテキストデータをまとめ、さまざまな印刷物の原案制作

DTP学習支援教材の開発に関しては、過年度の筆者の講師研究活動において、イラストレーションソフト関連とフォトレタッチ関連の教材開発を行い、さらにページレイアウトソフトに関しても、初期導入学習教材を作成した。作成した教材に関しては、それぞれ専門課程の授業で活用している。

2. 教材開発のねらい

かつて作成したDTP学習支援教材（ページレイアウトソフト初期導入編）は、現在もDTPソフトのバージョンに合わせた部分的な改良を施して現在も活用を続けている。この初期導入用教材は「初めてページレイアウトソフトを学習する人が、わかりやすく学習でき復習も容易であること」を目指して開発したため、学習を進める上での内容は基礎的なものがベースになっている。本文形式は1段組みで、各ページに配置する画像は定型で一つとなっており、作業進行を単純化させ、より基本的な流れをしっかりと理解できるよう配慮してある。しかし、現状の問題点として、次の段階で、より発展的な内容を学習するための教材が必要になってくることがあげられる。

そこで、その問題に対応するべく、この初期導入教材を使用した学習の後に、より発展的な内容を学習するための教材を作成することとした。

3. 新たに作成する教材のコンセプト

作成する教材は、次のコンセプトに基づき開発していくこととした。

(1) 自由度の高い写真等のレイアウト学習

内容はページレイアウトソフトで作成するものの中でも、特に自由度の高い写真等のレイアウトを学習できることを重要視する。

(2) コンパクトな小冊子タイプ

パソコン前での学習をふまえ、邪魔にならないサイズで、持ち運びや収納性にも考慮する。

(3) 理解を促進する工夫

学習を進める上で生じた疑問を、その場で解決するための工夫を盛り込む。また、なるべく図解を多く盛り込む。

4. 開発した教材について

前述のコンセプトの下、今年度の授業運営の状況や、学生の状況をふまえながら、次のような教材を作成した。

4.1 理解を促進するための工夫

(1) 3つの主要構成部。

①作業説明部 ②ポイント解説部 ③専門用語解説部の3部構成となっている。わかりやすく作業を説明し、その際に注意すべきことを右側のポイント解説で理解し、さらに難しい用語についてすぐ理解できるように専門用語解説を下部に設定した。（図1）

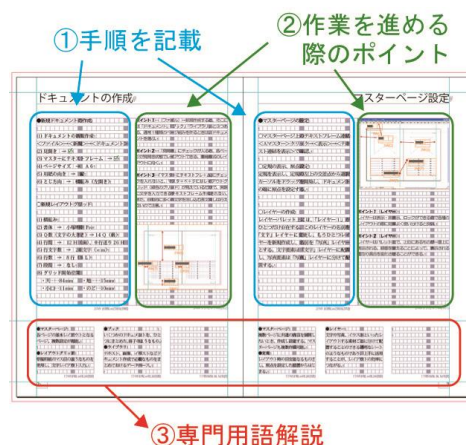


図1 教材の主要構成部

(2) 図解の多用

分かりやすい図を効果的に配置し、作業を進めやすく考慮している。

4.2 作成教材比較

初期導入教材（図2）

○基礎的な内容を集中して学習

- ・ドキュメント作成、マスターページ設定（ノンブル、柱、写真枠、ガイド、テキストフレーム）
- ・本文テキスト配置、段落スタイル、文字スタイル
- ・ページ毎の柱設定、見出し設定、ルビ設定
- ・写真の配置



図2 初期導入教材による制作例

応用展開教材（本年度作成）（図3）

○自由度の高い写真等のレイアウトを学習

- ・配置した写真等に対する本文の回り込み設定
- ・ページ処理（スプレットの分離処理）
- ・複雑な文字組み（縦中横、段落字下げ、パーレン・カッコ等の設定）
- ・自由度の高いタイトル・見出し設定



図3 応用展開教材による制作例

4.3 教材本体体裁（図4）

- ・A5版書籍形式、16頁、フルカラー
 - ・A4版用紙に見開きレイアウトで印刷可能
- コンパクトで収納性も良く、A4サイズの用紙に見開きで印刷できるので、16頁ながらA4用紙4枚で1部を作成可能。また、作業説明部、ポイント解説部、専門用語解説部の3つの構成要素の背景を色分けすることによって、より見やすくなるよう工夫している。

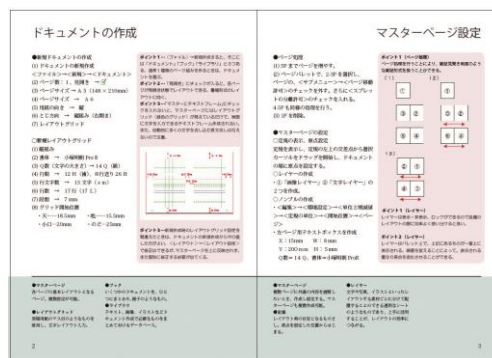


図4 教材本体体裁

5. 教材の検証

ページレイアウトソフト導入授業は、産業デザイン科グラフィックデザイン専攻2年生向けの年度当初に実施しているが、応用展開教材の開発は年度後半まで及んだため、来年度の同授業で使用して、アンケートを実施し、検証することとしたい。

6. まとめ

実際に教材作成を進める中で、改めてページレイアウトソフトの習得には多くの内容を理解する必要があると、短時間で効率よくひとつひとつの要素をしっかりと学習させるには、多くの問題があると感じられた。今回作成した教材にはまだ十分ではない部分もあるので、教材本体と使用方法の見直しを行い、学生がより意欲的に取り組めるものとなるよう、来年度以降の授業において使用して検証を繰り返し、より良いものに改善して学生のページレイアウトソフト習得に役立てたい。

7. 参考文献

7.1 書籍

新詳説DTP実践InDesign Mdn 社

7.2 Webサイト

猪苗代観光協会公式サイト

<http://www.bandaisan.or.jp/>

磐梯山噴火記念館公式サイト

<http://www.bandaimuse.jp/>

福島県公式サイト

<http://www.cms.pref.fukushima.jp/>